



奈良に古くから伝わるむかしばなしを紹介します。

きつねの 井戸

奈良の
むかし
ばなし

第39話

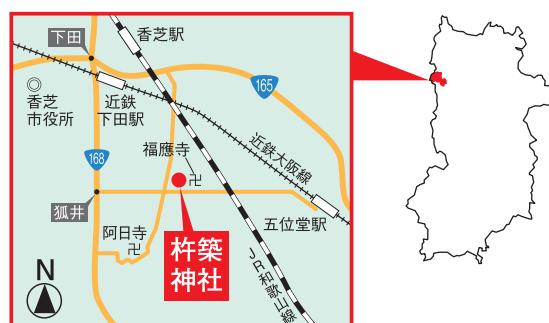


文・山崎しげ子



〈地域のお祭り〉
7月9日の福應寺ご本尊公開時には、屋台などが並び毎年にぎわう。

物語の場所を訪れよう



「杵築神社」
(香芝市古井580)へは…
近鉄五位堂駅から西へ約800m。

奈良県の北西、香芝市にある狐井というところ。今回はその地名の由来についてのお話。

昔、この村は水に恵まれず、村人は鎮守のお宮さんに、「どうぞよい水をお与えください」と祈っていた。

鎮守の森には狐の家族が住み、人なつっこい姿をよく見せた。村人は「ひょとしたら、神様のお使いかもしれん」と、暑い日には、大切な水を少しきなこに与え、貴重な油揚げをそつと置いたりした。

さて、その年はとりわけ、水不足が深刻であった。ある日、村人が「お宮さんの奥で、何やら水の音がする」と言った。大急ぎで皆が駆けつけてみると、なんと井戸からきれいな水が湧いていた。

狐井に大樹が繁る杵築神社があり、境内に「きつねの井戸」といわれる古井戸が今も残る。

*
そこで、杵築神社の東隣に、恵

その福應寺から南へ約400メートルに、阿日寺があり、寺蔵の梵鐘に、恵心僧都誕生地との縁起が刻まれている。僧都は二上山麓の当麻の生まれとの説もあるが、いずれにせよ、二上山に沈む夕日の美しい光景の中に阿弥陀如来の来迎を見、淨土信仰への思いを深めた。

福應寺から西を望むと、正面に二上山雄岳がどつしりとした姿を見せ、田畑の向こうには民家。周囲は、きつねの井戸といい、恵心僧都の説話といい、なるほどと思わせる静かなたたずまいである。

心僧都源信の創建と伝える福應寺がある。ご本尊は恵心僧都真筆とされる板絵「阿弥陀二尊來迎図」。このご本尊が毎年7月9日に開扉される。

その福應寺から西を望むと、正面に二上山雄岳がどつしりとした姿を見せ、田畑の向こうには民家。周囲は、きつねの井戸といい、恵心僧都の説話といい、なるほどと思わせる静か